

中國經濟全書

第十一輯

在上海東亞同文書院調查（第十一輯）

中國經濟全書

東亞同文會發行

中國經濟全書 (全十二冊)

著者：東亞同文會

發行所：南天書局有限公司

登記證字號：行政院新聞局局版臺業字第一四三六號

出版者：南天書局有限公司

台北市羅斯福路三段二八三巷14弄14號

電話 (Tel)：(011)3611019

傳真 (Fax)：(011)3613834

郵政劃撥帳戶：〇一〇八〇五三一八號

印刷者：國順印刷有限公司

板橋市中正路二一六巷2弄13號

中華民國七十八年三月影印

SOUTHERN MATERIALS CENTER, INC.

P. O. Box 13-342 Taipei, Republic of China.

中國經濟全書卷頭語

中國社會經濟史學之研究自一九三〇年以後即日趨發達，至第二次世界大戰結束後更有蓬勃之進展。尤其在東亞國際體制變動的國際環境下，中國的經濟發展問題備受矚目，近代中國社會經濟的調查研究，亦成爲學術研究重要之領域。無論是社會學或經濟史學的研究，俱仰賴於豐富的資料。

邇來，各地舊刊方志分別重刊，提供了豐富而詳盡的資料，但卷帙浩繁且良窳不齊，實爲美中不足。除此之外，中文方面的資料缺少有系統的全面的調查資料。

外文方面有兩種資料彌足珍貴：一是 Royal Asiatic Society 編纂的 *Journal of the North China Branch of the Royal Asiatic Society* 1858~1948 (Shanghai, Nendeln, Krans Rept. Ltd. 1967~1969)。

七三卷；一是日本滿鐵調查部出版的『滿鐵調查月報』（一九一九—一九四四年）二四卷。兩者均屬調查報告，採論文形式，內容以專題居多。

至於中國社會經濟的全面性調查報告，則仍推東亞同文會編輯的『中國經濟全書』與『中國省別全誌』爲最重要。

東亞同文會接受日本政府的巨額補助，從事「對華文化事業」，對中國社會經濟學作詳盡的調查報告，作爲日本經略中國之用，有違其設立之初所標榜「保全中國」、增進中日兩國友好關係的宗旨，但就學術觀點言，資料之豐富，頗具參考價值，迄仍爲研究中國社會、經濟等的重要寶藏。

『中國經濟全書』共十二卷，內容廣泛而詳實，舉凡財政制度、市場經濟、工商慣例、企業組織、國內外貿易等，均有詳盡之記述，可說是一套包羅萬象的經濟叢書。

總之，其內容豐富，牽涉到經濟各層面，故本叢書之再版，必能嘉惠士林，不僅治經濟史學者所必備，即社會學、中國近代史等之研究，亦裨益良多，誠爲近代中國經濟研究最佳叢書之一，爰綴數言以爲介。

中央研究院近代史研究所研究員 林 明 德

支那經濟全書推薦の辞

一九三〇年代から目立って發達してきた中国社会經濟史學の研究は、第二次大戰後格段の進歩を遂げつつある。とくに東アジア國際体制の変動という國際環境の下で、近代中国の社会經濟の調査研究は、今や學術研究の重要な分野を占めるに至った。社会学あるいは經濟史學の研究にとって、最も重要なことは、資料の蒐集であることはいうまでもない。

ここ数年来、清代及び民国の地方志が相前後して覆刻された。これらの膨大な資料は確かに豊富な史料を提供しているが、その内容はまちまちであり、更に佚書の多いのが惜しまれる。ましてこれ以外には、中国文の系統的な資料集類は見当らない。しかし、調査報告に関しては、なんといっても東亞同文会の編纂による二大シリーズ——『支那經濟全書』全十二卷および『支那省別全誌』全十八卷は斯界の白眉といふことができる。

東亜同文会は、「対華文化事業」の一環として、日本の対華政策に加担し、対清経営の宝典となすことを期して調査編纂に当たってきた。しかし、学術的立場からいえば、これら調査報告は、近代中国社会經濟の貴重な資料を提供しており、社会經濟史の研究にとっては、不可欠の資料といえる。

本シリーズは、近代中国の社会經濟全般にわたり、詳しい調査研究に基いて編纂されたもので、その内要は実に広汎で、財政制度、市場經濟、工業、商業から企業組織に至るまで巨細もらず豊富に含んでいる。利用価値の高い資料集であることは明らかである。今回、「支那經濟全書」の覆刻出版がなされることを喜び、これらが近代中国史研究ならびに經濟史学等の各方面の研究の一層進展に必ずや貢献する所多大のことを確信して、ここに推薦する次第である。

中央研究院近代史研究所研究員 林 明 徳

支那經濟全書第十一輯目次

第一編 一般工業 一

第一章 支那工業ノ沿革 一

第一節 太古時代 一

第二節 上古時代 四

第三節 中古時代 七

第四節 近古時代 一七

第二章 支那經濟界ニ於ケル工業ノ地位 二〇

第三章 工業ノ種類 三三

第一節 製作品ヲ標準トセル區別 三三

第二節 企業組織ニヨル區別 三七

第四章 工業組織 三九

第一節 投資ノ方法 三九

第二節 企業家ト補助員 四一

第三節 雇傭方法ト報酬 四三

第五章 工業ノ保護獎勵 四六

第一節 新興工業ニ對スル一般ノ獎勵保護 四六

第二節 工業教育 四九

第一款 緒言 四九

第二款 直隸高等工業學校 四九

第三款 成都勸工總局 五二

第四款 天津實習工場及習藝所 五四

第五款 其他學校の工場 五五

第三節 陳列所 五六

第六章 工業ノ將來 五七

第二編 燐 寸 六九

第一章 總論 六九

第一節	日本產燐寸輸出狀況ノ概略	六九
第二節	日本ノ對支那燐寸貿易概況	七四
第三節	支那ニ於ケル燐寸業沿革	七九
第二章	原料	八五
第一節	緒言	八五
第二節	軸木	八六
第一款	支那ニ於ケル軸木原料	八六
第二款	支那ニ於ケル軸木業及製軸法	八九
第三款	軸木ノ輸入狀況	九一
第三節	箱木及底板	九四
第一款	支那ニ於ケル原料	九四
第二款	箱木及底板輸入	九五
第四節	藥品	九八
第五節	包紙及張紙	一〇一
第六節	外箱及鐵葉亞鉛板	一〇四

第三章 製造	一〇四
第一節 燐寸ノ種類及名稱	一〇四
第二節 小箱製造	一〇七
第三節 藥品ノ調合並ニ混和	一一〇
第四節 燐寸仕上ニ關スル諸作業	一二二
第五節 荷造法及其費用	一二二
第六節 職工ノ狀態	一二三
第七節 各地燐寸製造工場ノ情況	一二三
第一欸 漢口 燧昌公司	一三三
第二欸 長沙 和豐公司	一三四
第三欸 北京 京師丹鳳火柴有限公司	一三五
第四欸 重慶 有隣公司及其他	一三六
第五欸 上海 燧昌公司	一三八
第六欸 福州 福建火柴廠	一三九
第七欸 九龍 隆起公司	一四六

第八款 廣東 大和公司 一四七

第九款 佛山 巧明公司 一四八

第四章 商標 一四八

第五章 燐寸製造ニ關スル附屬諸事項 一五一

第一節 燐寸業ノ諸機關 一五一

第二節 政府ト燐寸業ノ關係 一五三

第六章 賣 買 一六一

第一節 製品ノ聲價 一六一

第二節 支那人ノ嗜好及需要ノ情況 一六四

第三節 賣買慣習 一六九

第七章 支那輸入ノ本邦燐寸 一七一

第一節 輸入燐寸ノ種類並ニ其商標 一七一

第二節 日本製品ノ聲價 一七六

第三節 日本燐寸ノ改良案 一八〇

第四節 販賣情況概略 一八四

第八章	燐寸並ニ燐寸原料ノ輸入税	一八六
-----	--------------	-----

第九章	結論	一八八
-----	----	-----

第一節	燐寸業ノ支那ニ於ケル經濟的地位	一八八
-----	-----------------	-----

第二節	支那燐寸業ノ前途	一九〇
-----	----------	-----

第三編	製紙業	一九三
-----	-----	-----

第一章	總論	一九三
-----	----	-----

第二章	沿革	二〇五
-----	----	-----

第三章	製造狀況	二〇六
-----	------	-----

第一節	製造種類	二〇六
-----	------	-----

第二節	原料及製法	二一一
-----	-------	-----

第三節	荷造	二一一
-----	----	-----

第四章	各地ニ於ケル狀況	二二一
-----	----------	-----

第一節	緒言	二二一
-----	----	-----

第二節	營口	二二三
-----	----	-----

第一款	窩紙製造狀況	二二三
第二款	販路及季節	二二五
第三款	取引習慣	二二五
第三節	天津	二二八
第一款	製紙ノ集散	二二八
第二款	用途及商況	二三三
第四節	上海	二三四
第一款	三大製紙場	二三四
第二款	華章造紙公司ノ情況	二三六
第三款	板紙製造法	二四一
第五節	杭州	二四六
第六節	沙市	二五二
第七節	福州及香港	二六〇
第五章	結論	二六一

第四編 精米業 二六七

第一章 精米器 二六七

第一節 支那固有ノ精米業 二六七

第一款 踏 臼 二六七

第二款 碾 坊 二七一

第二節 輕便蒸汽杵搗 二七六

第三節 上海ニ於ケル新式精米機 二七八

第四節 通商米廠 二八〇

第五節 「エンゲルバルグ」機ノ成績 二九四

第六節 米廠ノ副業物 二九六

第二章 量 制 二九八

第三章 米行ト精米所トノ關係 三〇一

第四章 結 論 三〇三

第一節 現時及將來ニ於ケル精米業ノ地位 三〇三

第二節 漢口、湖南、上海ニ於ケル精米所及各新式精米機ノ比較論評 . . . 三一

第一款 漢口 . . . 三二

第二款 湖南 . . . 三一七

第三款 上海 . . . 三一九

第五編 製粉及製麵 . . . 三二五

第一章 總論 . . . 三二五

第二章 漢口ニ於ケル製粉業 . . . 三二九

第一節 緒言 . . . 三二九

第二節 舊式製粉所(磨坊) . . . 三三一

第一款 製造法 . . . 三三一

第二款 事業經營 . . . 三三五

第三節 洋式製粉 . . . 三三七

第四節 漢口ニ於ケル新舊製粉所ノ得失 . . . 三四三

第三章 天津ニ於ケル製粉業 . . . 三五二

第四章	上海ニ於ケル製粉業	三六八
-----	-----------	-----

第一節	製粉所	三六八
-----	-----	-----

第二節	上海ニ於ケル需要供給	三八五
-----	------------	-----

第五章	支那ニ於ケル麵業	三九四
-----	----------	-----

第六章	結論	四〇三
-----	----	-----

第六編	紡績業及綿絲	四〇九
-----	--------	-----

第一章	總論(沿革及大勢)	四〇九
-----	-----------	-----

第二章	紡績會社	四一三
-----	------	-----

第一節	上海ニ於ケル紡績會社	四一五
-----	------------	-----

第一款	緒言	四一五
-----	----	-----

第二款	紡績會社及其組織	四一六
-----	----------	-----

第三款	各紡績會社ノ資本金及鑄數	四一七
-----	--------------	-----

第四款	製出綿絲(製出額、種類、商標及銷路)	四二〇
-----	--------------------	-----

第二節	漢口ニ於ケル紡績會社	四二二
-----	------------	-----